

委員補助者

第一會場 横山均二君(工大) 松岡洋三君(工大)
北野均君(帝大)
第二會場 喜多正司君(帝大) 甘粕達雄君(鐵道)
川山一雄君(鐵道)

以上各氏の非常なる努力に依り遺憾なく終始したるは委員各位及補助者諸君に負ふ處多大にして茲に深甚の謝意を表す。(以上は會長の挨拶及晩餐會演説を参照のこと)

當日配付の参考書類 1、昭和7年度會務報告、2、講演大要及前刷、3、出席者名簿、4、服部賞牌並同賞金受領者及香村賞牌受領者推薦理由書、5、宗田太郎氏講演前刷、6、プログラム變更注意、7、見學工場道案内圖等。

第1日講演會 4月3日(月祭)午前9時開會

此日天候定まらず時々驟雨を見たれども開會時刻前既に會場に多數參集し開扉するや各々希望の部會場に入り着席せり、定刻に入るや、第一會場に於ては渡邊理事の開會の辭に次で講演に移り松下理事、服部博士、香村博士、吉川博士の司會の下にプログラム通り順調に進行午後5時40分全部完了散會す。

第二會場にありても依り理事の開會の辭ありて直ちに講演に移り、依博士、渡邊博士、村上博士、石川博士の司會の下に順調に進行せり、只遺憾なりしは第二會場の講演者大阪工大の松川達夫氏より急病にて缺席の電信に接したり、直ちに委員等協議の上同校より出席の篠田軍治君に其の代讀を得てプログラムを變更せず洩らす處なく午後5時35分全部演了し盡し兩會場とも最も盛況裡に散會せり。

以上第一日講演會は講演數26題の多數にして其包容又製造より用途結果に至る廣汎にして何れも講演者の心血を注がれたる有益なる講演なりしも時間の都合上二部に分ち又時間を制限したるは遺憾の次第なり、茲に講演者始め熱誠に終始傾聴されたる參會の諸君に對し陳謝すると同時に本日司會者並に講演者派遣され貴重なる研究、實績の御發表を許されたる方々に對し深厚の謝意を表する次第なり。

晩餐會 4月3日午後6時30分開會

(晩餐會卓上演説速記午後7時50分開始)

○會長 河村驍君 一寸御挨拶を申し上げます、本日第18回總會を兼ねて第10回講演大會を開きました所、多數の講演者の御方々が御講演下さいまして、又非常に多數の聴講者の方までございまして、盛會裡に無事に會を閉ぢましたことは誠に欣快に堪えない所でございまして、此會を開きますに付きまして、非常に種々御盡力下さいました鐵鋼協會の委員諸君並に本日の講演大會の司會の勞を執つて頂きました諸君に對しましても厚く御禮を申し上げます、又今夕御來駕を頂きまして誠に光榮と存じて居ります造兵廠長官岸本中將並に東京工廠長高橋少將並に東京製鋼の戸村常務、是は明日大勢引連れて打揃て御邪魔に罷り出るのであります、其他色々な工場を拜見いたしますが、是等の工場の御方々に對しましても厚く御禮を申し上げます、尙本日鐵鋼技術の進歩に貢献された方に服部賞並に香村賞の贈呈式を行ひまして、本會の事業に一大光彩を添へましたことは、是等の功勞者の方々の多年の御苦心、御盡力に依ることでありまして、その功勞に對しましては深厚なる敬意を表しますると同時に、此贈呈式を舉行するの資金を提供されました服部博士並に香村博士に對しましても感謝の念を新たにす次第でございまして、尙此毎年の晩餐會の席上に於き

ましては會長と致しまして、何時も所感を述べる前例になつて居るのでございまして、本日私は總會の席上に於きまして、昨今に於ける日本の製鐵界の情勢、將來に對する希望、又鐵鋼協會が此際に處する覺悟等に付きましても申述べました次第でございまして、私から重複して所感を申し上げますよりも、本夕は遠來の珍客も見えて居りますこととございまして、是から順を追つて御話を承はりたいと思ひますので、私は單に以上申し上げました御挨拶のみに止めます次第であります、それでは甚だ僭越であります、皆様の御許しを得まして、前例に依りまして五分間演説をして頂きたいと存じます、甚だ僭越でございすけれども、私より指名することの御許しを願ひます(拍手)、それでは先づ今日の服部賞牌受賞者たる西山君に一言御願ひ致します。

○西山彌太郎君 私に何か申すやうにと云ふ御指名でありますので、私より本日服部賞を頂きました一人として、又代表として甚だ僭越でございまして、此席上に於て厚く御禮を申し上げます、私共は今までやつて居りました仕事を顧みまして誠に汗顔の至りで何等特別に推奨に値ひする程の仕事はして居ないと思ふのであります、然るに本日斯かる名譽ある受賞を頂きましたことは、私共の身に取りまして誠に光榮の至りに存じます、顧みて何等大した仕事もしないに拘らず此名譽を頂きましたことは非常に有難いことと存ずる次第であります、此名譽を頂いたことは偏へに協會の皆様方の御援助に依りますことと此點は協會の皆様方に對して厚く御禮を申し上げます、又殊に本協會から私共は色々講演會に於きまして、或は雑誌の上に於きまして多大な庇護を受けて居るのであります、是等のことは色々點に於て我々の仕事の上に裨益する所が大變甚大であると思ふのであります、御蔭を以ちまして我々の仕事が幾らか出來まして、今日の此光榮を擔へるに至りましたことは誠に感謝の外なく厚く御禮を申し上げたいと思ふのであります、今後は今迄よりも尙一層努力を致しまして、今日の光榮を汚がさず將來は一層努力して皆様の期待に添ふやう固く身に誓ふ次第であります、尙本夕は此盛大なる晩餐會に應々招いて頂きまして誠に有難うございました、是亦厚く御禮を申し上げます。(拍手)

○會長 河村驍君 それでは香村賞牌の受賞者三島博士に御願ひ致します。

○三島徳七君 本日我が日本鐵鋼協會の第十八回總會に方りまして榮譽ある香村賞牌を授與せらるる光榮を得ましたことは、私に取りまして此上なき名譽であり又喜びであります。茲に謹で御禮を申し上げます。私は大學卒業後續き十有餘年の間専心研究に努めたのであります、誠に平々凡々で別に是れぞと申す發表すら出來ませんでした、又本日受賞の理由となつて居ります M.K. 磁石鋼の發明も未だ不充分なものでありまして從て此名譽ある賞牌を受くることは不當なことと存じたのであります、折角の御事であるので過分とは思ひ乍ら拜受致した次第であります。之迄の研究的生活中忘るゝ事の出來ませぬ者は、諸先生、諸先輩並に本會會員中の友人知己の方々から常に激勵鞭撻のお言葉を賜りましたことで、之れが私の研究に多大の刺戟となつたことは今更乍ら深く感謝して居ります次第であります。將來も益々努力致しまして本日の名譽を傷けることなく何か幾分とも御國の爲めになりますやう研究に勵んで行き度いと考へて居りますから、皆様に於かれましても今後一層の御指導と御鞭撻を賜はられむことを御願ひ申し上げます。終りに臨みまして今夕は御鄭重なる晩餐會に

御招待下さいまして此盛宴に列するを得ましたことは重ね重ね有難いことと存じます。甚だ簡単でありますが一言御挨拶をかね御禮申上ぐる次第であります。(拍手)

○會長 河村驍君 それでは次に服部賞の授賞者たる服部博士に御願ひ致します。

○服部 漸君 本日は此盛大なる晩餐會に列しまして、皆様方の色々御話を承はりまして非常に光榮とする所でございます、只今御指名でございますから一言御挨拶を申し上げたいと思ひます、我が日本鐵鋼協會も大正4年の誕生以來本年は第19年を迎へ本日第18回通常總會並に第10回講演大會を又昨日は第8回研究部會を開きまして、私共は誠に有益なる御講演や御意見を拜聴し、又會長の總會に於ける御報告を聴きまして、此19年の間に本會は誠に健全なる發達を遂げて今日に至つたと云ふことは皆様と共に御同慶の至りに堪えないのであります、それに毎月發刊になります所の「鐵と鋼」、此雜誌の内容に於きましても時勢の推移と共に段々内容を充實せられまして、其體裁に於きましても、其大きさと謂ひ、其記事の配列と謂ひ、年を逐うて改良せられ益々有益なる雜誌となつたものでありますことは、偏へに會長を初め役員諸君の御努力に依つて進歩したこと、深く是も感謝致す次第であります、尙又本日賞牌並に賞金を受けられました諸君の御名譽は誠にそれぞれ御専門の道に就いて長い間御研究を積まれ、且つ長い間の経験を重ねられました其結果が今日に於て現はれたことと存じまして、謹んで御悦びを申し上げます、又此事は單に此賞牌賞金を受けられた御自身の御名譽であるばかりでなく、本會が斯の如き方々を出したと云ふことは、皆様方と共に本會の爲に大いに慶賀に堪えない次第であります、併ながら此研究なり又實地の経験を長く積まれた諸君の今後に於きましても一層の御努力を願ひたいと存ずる次第であります、夫れは今日此文化の進んで行く様子は殆ど日進月歩と申しても宜しいのでありまして、一日怠れば忽ち人後に落ちると云ふやうな状態に在るのでございするから、今迄勵まれた通りに、今後に於きましても一層心力を傾倒せられて斯道の爲に御盡しあらむことを偏へに希望する次第であります、尙只今會長から此賞牌の名前に服部と云ふ名のついて居る爲に、私に對して過分の御挨拶がございましたが、實は是は皆様方會員諸君の御好意に依りまして、此金と云ふものが集まつた次第でありまして、斯かる資金に依つて皆様方の御研究に對し幾分でも御奨励になると云ふことは誠に結構なことで私は今日御列席の諸君に此際改めて厚く御禮を申し上げねばならぬ次第であります、今晚は此盛大なる晩餐會に臨みまして誠に愉快に堪えませぬ、御指名に依りまして一言御挨拶を申し上げます。(拍手)

○會長 河村驍君 少し順序が悪いかも知れませぬが、本日の總會の席で御紹介申し上げました通りに、名譽會員になられました俵博士に今度何が御願ひ致します。

○俵 國一君 立ちましたけれども、別に申上げることも實は考へて居りませぬ、でありますけれども、今日の講演會に於きまして一寸感じましたことを申し上げます、是は二三の場合に度々申したことであります、講演會は其實、量に於きましても益々盛んになりました、又非常に良くなつたやうに自分は考へます、是は誠に喜ばしい次第であります、各方面に於きまして澤山の方が各々違つた方面の御研究の結果を御發表になります、それで我々拜聴しましても大變に其事柄は充分分らなくても、立派なことをやつて居らるゝ位なことは分るものですから大變喜んで居る次第

であります、甚だ遺憾でありますのは、どうも二部に分れて居ることでありまして、それで實は自分で考へましたが、前には講演會が年に一回であつたのであります、而も其講演者を得るのに或は人がなからうかと云ふので、以前は講演者に僅かではあるけれども、旅費迄差上げて講演を御願ひするやうなことであつたのでございしますが、今度は春秋二回で、年に講演の数が70以上も出ると云ふやうなことになりました御同慶に堪えませぬ、それに付て一つの私の考を提案して皆様の御考を願ひたいのであります、時間に制限があり、数が多いと云ふことになるかと云ふと、どうしてもなんだか此處に一つの工夫をしなくちやどうしてもやり切れないと思ひます、他の學會でも現在始めたやうに承知して居ります、即ち歐米の學會のやうに、講演する前にはアドヴァンスコピーを充分に拵へたいことであります、今日あたりも二三さう云ふのが印刷してありましたが、其アドヴァンスコピーが出来れば夫を同一専門家に豫め送りまして、ディスカッションの提出を前以て願つて置くと云ふと、大變後の質問なりに付ても貴重なる論議が交換せられ、又順序よく行けて従つて講演會の趣旨を遂げるによくないかと思つて居ります、實は日本の或る學會の例を聞きますと、其アドヴァンスコピーを印刷するに、それを役員が前に見なくちやならぬのであります、それが又中々大變ださうであります、斯う云ふことになると益々役員には御骨折りのことと思つて居ります、併しさう言つても他方に於きましては中々此アドヴァンスコピーの提出は困難であります、私など若い時に講演をやりました場合、思ふやうに行かないものでありました、此中に出来ないであらうが之を是から是非講演者に實行して頂くやうにする、又どうしても之を御出しにならなければ、其人の講演は次回に廻はさうと云ふことになります、まあ斯う云ふことになると、利益が相方に得られるだらうと思つて居るのであります、終りに御禮を申し上げます、實は先程會長から御披露になりましたやうに、私も今度名譽會員に御推薦下されたと云ふことは誠に有難く思ふのでございします、貢獻の方は何も致しませぬが、唯徒らに年の方は充分に取つて居るに過ぎませぬ、是は全く御覽の通りに年を取りました爲めの御推薦と思つて居るのであります、難有き此榮興を感謝致します。(拍手)

○會長 河村驍君 色々俵博士から御謙遜なる御言葉頂きまして却つて私共の方で恐縮に存じて居ります、俵博士は只今御來客があるさうで中座なされると云ふことであります、後廻はしに致しまして甚だ恐れ入れますが、もう一人香村博士に一言御願ひ致します。

○香村 小録君 本會の晩餐會の席上に於きまして五分間演説を會長から御指名になりますことは是までの常例になつて居りますが、私は豫々思つて居りますのは、是まではどうも多くの場合は同じ私共のやうな老人の間に御指名になる傾きがあるやうに存じますので、どうか將來は成るべく各方面に普遍的に、殊に若い方色々熱心に御研究なされて居る方と云ふやうな人に成るべく今後は多く御願ひすることに致したいと云ふ希望を持つて居りますので、此意味に於て今日私は五分間でも貴重な時でありますから、御遠慮申上げる積りでありましたが、只今會長の御話の、今日の賞牌に私の名が冠してあると云ふ光榮を以ちまして御指名になつたことと思ひまするので、單に其事に付ての感じを一言申上げて御免を蒙りたいと思ひます、香村賞牌は昨年の10月大阪の大會に於きまして、第1回の受賞者として鑄鐵管の製造法に付て

最も新しい有効な發明をなされました所の久保田權四郎君を得まして、今回は又 M. K. マグネットスティールの大いなる發明に成功されました三島博士を得ましたことは、誠に私今のやうな關係を持つて居ります者から欣快に堪えない所でありまして、本日賞牌を受けられた三島博士の如きは、世界的の發明をなさつた方で、世界的の名譽の大なる賞牌を御受けになるのが當然であります、然るに香村賞牌と云ふやうなものが、斯の如き立派な受賞者を得ましたことは誠に無上の光榮と存ずる次第であります、又服部賞牌を御受けになつた方々の功績に對しても、服部博士は私と同じやうな感じを御持ちになつて居ることだらうと考へて居ります、それで是は製鐵鋼業に關します功勞とか發明とかと云ふものに對しましての賞牌でありますので、會員一般がどうか益々御奮勵になつて、今の賞牌を御受けになると云ふやうなことにしたいと衷心から望んで居ります、又今日御受賞になつた方も其功勞或は發明に對しての賞でありますからして、今後又色々な發明をなされ、又は新たな功勞を御樹てになつて、賞牌を5つも6つも10も御受けになると云ふやうなことになるたい私は思つて居ります、又此證衡に關しましては鐵鋼協會の理事、評議員各位の御證衡誠に宜しきを得たことだと思ひますので、是等の諸君に對しても深く感謝の意を表する次第であります。(拍手)

○會長 河村 曉君 それでは大變遅くなりまして恐縮でございますが、今夕の來賓であられる岸本中將閣下に御願ひ致します。

○岸本 綾夫君 私は此鐵鋼協會には何等籍を置いて居る者ではございません、唯職務を造兵廠に持つて居ります關係上御招待を受けまして、豫々聞いて居りました名譽ある協會の宴席に列することを甚だ光榮に存する次第でございます、従ひまして最初に會長より御挨拶がありました直後私は一般の慣例に従ひまして、外部から參りました者としまして一言御禮を申したいと存じまして、其事を會長に耳打ち致しました所、暫く待つて呉れと云ふ御言葉でございました、そこで實は待つて居りますと云ふと、皆様から非常な有益なる又非常に御上手な御話を承はつたのであります、其揚句の果てにお前立てと云ふ只今の仰せでございます、誠に私としては迷惑至極でございます、たつた一言有難うございますと言ふ積りで居りました所が、今申上げるやうな次第で多數雄辯家の後に咄辭で申上げなければならぬわけで自分にも迷惑であり又皆様に對しても誠に相濟まぬ次第でございますが、一言御禮だけ言はせて頂きたいと存じます、今日は態々御招き下さいまして、各位に御目通りを致しました、無論多數の御方々は從來とても屢々御目にかゝり御厄介になつて居るのでございますが、中には今日初めて御目にかゝる方もございます様の次第で兎に角我國の鐵鋼界の權威者の御話を聴き、御目にかゝり、又只今は名譽ある賞牌を御受けになつた方々、又服部博士、香村博士の此賞牌を御授けになつた方々の御話も承はりまして、誠に結構至極に存じます、厚く御禮を申し上げます、私は一介の武辯でありまして、何等鐵や鋼の學問などは全然知りませぬが、併し鐵の消費のことは能く存じて居るのであります、要するに私共の業務と云ふものは今日一朝事ある時に全く鐵の浪費者なんでありまして、皆様からの御造りを願ひましたものを無暗矢鱈に使ふのであります、それほど餘計使ふとは私も實は存じませぬでありました、古い話の日清、日露あたりの自分達が體驗しましたことを考へても、さほど自分には感じなかつたのでありますが、最近の世界大戰に於きまして、鐵の消費量が莫大であつたと云ふことは書物でも見まして

も明かであります、然し自分の責任として如何に消費を補給すべきかと云ふことは實は今日迄餘り考へずに居つたのでありますが、一昨年の事變以來私は造兵廠に居りまして兵器の補給を擔任して居りました關係上種々感じた事もあるのであります、御承知の通り今回は比較的戰爭が早く済みましたにも拘らず鐵、鋼の消費と云ふものは實に驚くべきものがあつたのであります、それはなぜかと申しますと云ふと、今日機械が非常に發達いたしましたのみならず、飛行機から爆彈を落す、此事は我々は今日迄少しも經驗がなかつたのであります、是は今回の事變以前には、我國は勿論、世界でもあの進歩した飛行機を以て爆彈を落したと云ふ例はありません、それが大戰後二十年近くの間に着々として發達いたしました飛行機が、敵軍の上空に於て爆彈を落したのであります、其落し方と云ふものは又實に速いのであります、大砲で射ちますと一發込めて射つては又一發彈丸を込めると云ふやり方ではありますが、飛行機で落しますには爆彈を唯飛行機に乗せて行つてどンドン落すのであります、あの速い速度で以て、敵の上に飛翔して行つてバタバタと落すのでありますから、其彈丸の要ると云ふのは實に想像外であります、今度の戰爭は僅かな期間でありましたが、爆彈に要する鐵並に鋼、それから此中に這入つて居る爆藥、或は火藥の費消費と云ふものは中々莫大なものであります、今後をもつと強い、もつと裝備の完全な敵と本當に國力を賭して闘ふと云ふ場合の鐵鋼の費消費と云ふものは實に測り知れざるものであると存じて居るのであります、之に付きまして御列席の皆様は鐵鋼の専門家であられるのであります故、願はくばどうぞ一朝事ある時には、幾らでも補給の出来るやうに、又成るべく安く、成るべく容易に、迅速に補給の出来るやうに一つ御考が願ひたいと存ずるのであります、是が第一に皆様に御願ひを致すことでもあります、次は機械が非常に發達いたしまして、非常に精巧なものを敵が使ひます、従つてこちらの方でも敵に負けぬやうに寧ろそれ以上のものを使はなければならぬのであります、さうでありませぬと相手にどうしても勝てませぬ、それには兵器の主體たる鐵及び鋼或は其他の金屬に非常な各種の性能を要求するのであります、今日あるものでは中々及ばぬものもあるかと存じます、従ひまして之の製作からして、或は之の取扱ひからして、又之の處理法からして、どうしてもどんなものでも出来る、又如何なる精巧なる兵器でも、又如何なる持久力のあるものでも、又如何なる要求にも堪える、從來の物に比して非常に勝ると云ふやうな鐵鋼を造つて頂きたいと御願ひ致す次第でございます、又我々が戰爭いたします上に付て澤山要りますとしても、是等は平時に於てはそれ程要らぬのであります、従つてどうしても是は平時に於きましては、經濟的に其生産力を運用する必要があると考へるのであります、先程會長の御話では、今日に於て今迄よりも餘計に鐵鋼を造つた國は日本だけである、他の國は總て以前から見れば生産が非常に減つて、又生産制限をして居ると云ふ御話でありましたが、是は我國の今日の時局の關係もありませう、又爲替相場の変動に依りまして、御承知の通り輸入が減りまして、輸出が増加して居ると云ふやうな非常に結構な時代と考へるのであります、此時機に於きまして、充分に技術を練られまして、完全なるものを、又廉價なるものを、確實なるものを御造り下さつて、大に海外に市場を獲得して平時に於きましては輸出に向け、戦時に於きましては國防に向け得るやうに一つ其經營も技術も充分練るやうに御願ひをしたいと私は考へる次第であります、實は唯有難うご

ざいますと、此事だけ申し上げる積りでありましたが、後に廻はされました爲に、止むを得ず今申し上げますやうな御願ひを致す次第でございます、どうぞ此點に付て今後とも充分御骨折のことを願ひます、それで此鐵鋼と云ふ問題は、實に平戰兩時とも所謂國家の興廢に大關係を有するものと考へられるのでありますので、御列席の専門家の各位に向つて篤と御願ひを致して置く次第であります、今日は又此御盛宴に列席させて頂きまして誠に光榮至極に存じます、重ねて御禮を甲上げます、終りに臨みまして鐵鋼協會の益々盛大なる發展を遂げられて、國家の爲に充分に御盡し下されむことを御願ひ致しまして私の挨拶を終ることに致します。

(拍手)

○會長 河村驍君 只今岸本閣下から激勵の御言葉を頂きました、實は本日私が總會に於て述べましたことも同様の趣旨であります、何分鐵鋼業に従事する者は非常な覺悟を要すると云ふことを考へなければなりません、丁度それを裏書して頂きましたが誠に有難うございました、御言葉通り協心協力いたしまして益々日本の鐵鋼業に貢献したいと存じて居るのであります、先程香村博士から御註文がありましたやうに、餘り始終顔を合はして居る者より外の方の御話を伺ふやうにと云ふことでございましたが、九州から遠來の珍客として高博士が御出でになつて居りますから、今度は一つ高博士に何か御願ひ致します。

○高 壯吉君 (後日別項とする故此所には省略)。

第二日工場見學 4月4日(火)

第一班 曇天、晝頃時雨あり、終日肌寒き日であつた。

淺野造船所製鐵部(午前九時二十分乃至午前十時) 定刻九時より九時二十分頃迄に、河村會長始め七十名參集した。製鐵部舊事務所に於て茶菓の饗應をうけ、取締役大村氏の御説明及會長の挨拶の後大村氏及所員の御案内にて、原料、燃料等の貯藏場、熔鑄爐、製鋼工場、壓延工場等を巡覽した。目下七月頃完成を期して、50t 平爐一基新設工事中である。

日本鋼管株式會社(午前十時半乃至十二時) 參加者會長以下八十名、事務所樓上にて茶菓の饗應をうけ副社長白石氏から工場の沿革概要の御説明及 6" 乃至 10" 大口徑鋼管の自給自足に對する計畫

抱負等を承る會長の挨拶の後數班に分れて、工場の見學をした。製鋼工場、製管工場、製條工場、検査場、製品陳列場等を巡覽した。平爐は修理中のものを除き全部操業中、目下重油高價の關係上發生爐瓦斯を用ふる事に還元の氣運の由である。事務所樓上にて晝食の饗應をうけた。

午後一時南武鐵道に乗車川崎驛下車、徒歩にて東京製鋼株式會社川崎工場に向つた。

東京製鋼株式會社川崎工場(午後二時三十分乃至午後三時三十分) 見學者約六十名、休憩所にて茶菓の饗應をうけ、常務戸村氏から製鋼工業の歴史につき面白き講話、同工場の沿革並事業の御説明及同社の特色ある製品について詳細御説明を拜聴した。次いで、大塚榮吉氏が見學者を代表して挨拶せらる。篠崎工場長の案内にて、焼入工場、洗線工場、製線工場、鍍工場、試験工場、製鋼工場、綱索工場、試験工場の順序に巡覽した。猶希望者はマニラ綱製造工場の見學をした。

鐵道大臣官房研究所(午後四時十分乃至午後五時) 豫定時間より約一時間遅刻したるに不向、所員各位が會の爲残り、懇切に御説明下された事を感謝す。磨滅試験室を始とし、土質調査研究室を最後とし、金屬、非金屬、燃料等各種に亘る研究室を巡覽した。(終)

第二班 4月4日(火曜日)

午前九時東京工廠に參集せるもの 100 名、休憩所に少憩中、高橋工廠長の挨拶あり、高博士の謝辭ありて、直ちに三班に分れ、小銃、砲具兩製造所を見學し、十時終了。隨時市電により理化學研究所に向ひ、各自自由に所定の順路に従ひ同所を見學せり。それより省線駒込驛より乗車、日暮里にて京成電車に乗り換へ、京成關屋にて下車、驛前なる千住鐵板製造所に正午到着す。工場主清岡氏は御親戚の御不幸の爲御不在なりしは遺憾なり。休憩所に入りて休憩中續々と見學者集り 140 名位の多數に達したり、同所より中餐の饗を受け、依博士の謝辭あり、昨年十月新設になる薄板壓延工場を見學せり。午後二時終りて、東武電車牛田驛より乗車、同小村井驛に下車、同じく清岡氏の經營たる吾嬭精鋼所に到着す。休憩所にて小憩茶菓の饗を受け、高掠技師長の挨拶及依博士の謝辭あり、引き続き再製銑爐、轉爐、電氣爐、平爐及壓延工場を見學、午後四時散會せり。